

かさじぞう (B)

(ナレーター1、2が上手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター1 「むかしむかし、あるむらに、こころのやさしいおじいさんとおばあさんが、すんでいました。ふたりはびんぼうで、あしたはおしようがっただというのに、こめもおかねありません」

ナレーター2 「それでも、むらの子どもたちは、おじいさんとおばあさんがだいすきで、いつもあそびにきては、たのしくすごしていました」

ナレーター1 「それにしても、きょうはとてもさむいちにちです」

ナレーター2 「空を見上げてから」おやおや、しろいゆきが ふつてきましたよ
(一礼し下手へ退場)

第一場面

(幕が開く。舞台はおじいさんの家の中。子どもたちは家の中で剣玉をして遊んでいる。おばあさんは、いろりの前に座って縫い物をしている。おじいさんは、腕を組んで立ち、家の外(下手)を見ている)

おばあさん 「手を止めて」おじいさん、なんだかさむくなってきましたね」

おじいさん 「空を見上げて」ほんに、ゆきがふつてきたわい。(笑顔で)いぬ

のこが、うれしそうに、ゆきをおいかけておるぞ」

(子どもたち、遊びの手を止め、観客に向かって直立し)

子ども1 「いぬのこが」

子ども2 「おうてゆくなり」

子ども3 「ゆきつぶて」

子どもたち 「(声をあわせて) いっさー!」

おばあさん 「これはおどろきましたね。どこでそんなはいくをおぼえたの?」

子ども4 「わたしたち、おじいさんにおしえてもらったの」

おじいさん 「(笑いながら頭をかいて) そんなことあったかなあ。じゃあ、これはどうだ?はつしぐれ・・・」

子どもたち 「(声をあわせて) さるも こみをを ほしげなり ぼしよう」

おばあさん 「みんな、よくいえましたね。きょうのようにさむいと、おさるさんもさむそうで、ちいさいみのがほしそうにみえる、というはいくですね」

子ども1 「ぼくは、ちいさいみのより、なにかたべるものがほしいよ。さつきから、おながかへつて。へこ。こなんだ」

こども2 「あたしもよ！おなかのかわとせなかのかわが、ひつつくら
いよ」

こども3 「ぼくもだよ。でも、おじいさんとおばあさんに、あんまりむりを
いったら、きのどくだよ」

おじいさん 「だいじょうぶだよ。さあ、おばあさん、なにかたべるものはない
かい？」

おばあさん 「(横に置いてあったお釜の底を見せて) それももう、うちにはこ
はんがこれだけしかなくて」

おじいさん 「そうか。それは、おしよがつようにとっておいたこめだからな
あ」

おばあさん (ポンと手を打って) 「おしよがつが、いちにちはやくきたとお

もえばいいんです。こどもたちもあそびにきてくれたことだし、い
まからごはんをたいて、おいしいおにぎりのよういをしてあげまし
よう」

こどもたち 「わーい。おばあさん、ありがとう」

おじいさん 「おばあさん、すまんう。じゃあ、わしはまちにいつて、このた

きぎをうってくることにするよ」(と行ってたきぎの入ったかごを
背負う)

おばあさん 「おじいさん、そんなむりをしなくてもいいですよ」

おじいさん 「いやいや。これでもまちでうれば、おもちのひとつやふたつ、か
えるだろうしな」

こども1 「(立ち上がって) おじいさん、ぼくもいっしょについていくよ」

こども4 「(立ち上がって) わたしもついていっていい？」

おじいさん 「これこれ、あそびじゃないんだよ。それに、まちまでのみちのり
はとおいんだよ」

おばあさん 「それに、おなかをもっとへりますよ」

こども2 「でも、おなかをへこへこにしたほうが、ごはんもおいしいんだよ」

こども3 「ぼくも、なにかおてつだいがないんだ」

こども4 「おばあさん、かえってきたら、みんなのおにぎりをよろしくね」
(子どもたちも出かけるしたくをする)

おばあさん 「はい、はい。じゃあ、ゆきがふっているの、みんなきをつけて

いつてらっしゃい」

おじいさん 「じゃあ、おばあさん、いつてくるよ」

こどもたち 「いつてきまーす」(手を振る)

おばあさん 「いつてらっしゃーい」(手を振る)

(こどもたち、おじいさんとともに下手へ退場)

(ナレーター3・4が上手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター3

「こうして、おじいさんとこどもたちは、まちにむかってげんきよくあるいていきました。ぶじにまちにつくと、さつそく『たきぎはいりませんか?』とみちゆくひとたちに、こえをかけましたが、どういうわけか、たきぎはひとつもうれません」

ナレーター4

「だんだんふるゆきもつよくなり、おじいさんは、たきぎをうるのをあきらめ、こどもたちといっしょに、いえにかえることにしました」

(一礼し下手へ退場)

第二場面

(幕が開く。舞台は町の市場のはずれ。おじいさんとこどもたちは、たきぎを売っている)

こども1

「いらっしやーい、いらっしやーい。みなさーん、たきぎはいりませんか?」

こども2

「よくもえるたきぎですよ」

こども3

「いまなら、やすくしておきますよ」

こども4

「さあ、かった、かった」

おじいさん

「(間をおいて) みんな、ありがとう。きょうはもうこれくらいにして、いえにかえろう。さむいおもいをさせてすまなかつたな」

こども1

「だいじょうぶだよ。おじいさん、もうすこしがんばろうよ」

こども2

「もうちよつとまてば、きつとだれかがかいてきてくれるわ」

こどもたち

(全員で声を合わせ)「いらっしやーい、いらっしやーい。たきぎ

はいりませんか」

おじいさん

「みんな、ほんとうにありがとう。はやくかえらないと、かぜをひいてしまうよ」

こども3

(下手を指さし)「おや、だれかがこっちにむかってあるいてくるよ」

こども4

「かさうりのおじいさんたちのようね」

(下手より笠売り登場。おじいさんとこどもたちの前に来て立ち止まる)

かさうり1

「おや、となりむらのおじいさんじゃないか。こんなところでなにをしているんだい?」

おじいさん

「ごらんのとおり、たきぎをうっているんだよ」

かさうり2

「けいきはどうかだい? たくさんうれたかい?」

おじいさん

「(頭をかいて) それが、その」

こども1

「じつは、ぜんぜんうれなくて、こまっていたんです」

こども2

「おじいさんたち、たきぎはいりませんか?」

かさうり 1 「すまないが、たきぎはもうまにあっているよ」

こども 3 「ちよっとだけでもいいですよ」

かさうり 2 「(かさうり 1 に向かって) このままだと、おじいさんもこどもたちも、かぜをひいてしまう。なにかいいちえはないかい?」

かさうり 1 (腕を組んでしばらく考えた後、ポンと手を打って)

「(かさうり 2 に向かって) こうすればいいんだ」(と言って、かさうり 1 の耳元にささやく仕草をする。かさうり 2 は大きくうなづく)

かさうり 1 「(おじいさんとこどもたちに向かって) よし、こうしよう。わたらのかさとおじいさんのたきぎをこうかんする、というのはどうだろう?」

こども 4 「え、どういうことですか?」

かさうり 2 「おじいさんにはわるいが、そのたきぎじゃ、うれてもせいぜいごはんいちぜんぶんだ。わしのかさも、ひとつでちょうどごはんいちぜんぶんだ」

こども 1 「そのかさたたきぎをこうかんしてくれるんですか?」

かさうり 1 「ま、そういうことだ。ただしくいえば、このかさひとつと、おじいさんのたきぎとをこうかんする」

「(このりのよつつのかさは、わしらからみんなへのおくりものだ。かぜをひいたら、としをこせないからな)」(と言って、一人一人の頭の雪を払いながら、順に笠を頭にかぶせていく)

おじいさん 「おお、これはありがたい」

こどもたち 「(かさうりに向かって頭を下げ、声をあわせて) おじいさんたち、どうもありがとう」

かさうり 1・2 「じゃあ、みんなたっしやでな」(手を振って下手に去っていく)

(おじいさんとこどもたちは、手を振って見送る)

こども 2 「このかさがあれば、ゆきがふってもだいじょうぶだわ」

こども 3 「しんせつなおじいさんたちにあえて、ほんとうによかったね」

こども 4 「おばあさんもきつとよろこんでくださるわ」

おじいさん 「おじいさんも、そうおもうよ。じゃあ、いえにむかって」

こどもたち 「(声をあわせて) しゅっぱーっ」

(一同、下手に退場)

—— 暗転 ——

(ナレーター 5・6 が上手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター 5 「こうしておじいさんとこどもたちは、いえにむかってげんきにしゅっぱしました。だんだんふるゆきもはげしくなり、おもうようにあしがうごかなくなってきました」

ナレーター6 「みんなおなかもすいてペコペコです。おじいさんと子どもたちは、これからいったいどうなるのでしょうか」
(一礼し下手へ退場)

第三場面

(笠をかぶったおじいさんと子どもたちが下手より登場し、ゆっくり上手に向かって歩いていく。舞台奥には、頭に雪の積もったお地藏さまが六体並んで立っている)

子ども1 「おじいさん、くたびれてもうあるけないよ」

子ども2 「わたしも、ちよっとつかれたわ」

子ども3 「ぼくは、おなかのかわとせなかのかわが、ひつつきそうだよ」

おじいさん 「だいぶあるいたからな。じゃあ、ここですこしやすんでいいこうか」

子ども4 (お地藏さまを指さして) 「わっ、こんなところに、おじぞうさまが！」

子ども1 「ほんとうだ。おじぞうさまのあたまには、まっしろなゆきがいっぱいもっているよ」

子ども2 「かわいそうに。わたしがおじぞうさまのゆきをはらってあげましょう」(と言って、左端のお地藏さまの頭の雪を払おうとする)

子ども3 「だめだよ。どんなにはらっても、ゆきがまたつもってしまふよ」

子ども4 「おじいさん、どうしたらいいの？」

おじいさん 「ほんとうにおきのどくじゃ。わしらにはいえがあるからいいよなもの、おじぞうさまは、やねもなくて、さぞおさむかるう」

子ども1 「こまったなー(腕を組む)」

子ども2・4 「こまったわー(指をほおにあてる)」

子ども1 (ポンと手を打って) 「そうだ！このかさを、おじぞうさまにかぶせてあげたらいいんだ」

子ども2 「それはいいかんがえね」

子ども3 「しんせつでもらったかさだ。こんどは、ぼくらがしんせつをするばんだ」

子ども4 「そうね、おじぞうさまも、きつとよろこんでくださるわ」

おじいさん 「おまえたちは、ほんとうにやさしいのお。じゃあ、じゅんばんにおじぞうさまにかさをかぶせてあげよう。おまえたちもてつだつておくれ」

(子どもたちとおじいさん、左のお地藏さまから順にかさをかぶせていく)

おじいさん 「(最後のお地藏さまの前に来て) あれあれ、かさがひとつたりないぞー」

子ども1 「ほんとだ。かさはもうひとつもないよ。おじいさん、どうしたらいいの？」

(全員、腕組みをして考えるポーズ)

おじいさん (ポンと手を打って) 「そうだ。このほおかむりを、おじぞうさま

にかぶせてあげよう」

(おじいさんは、最後のお地藏さまに自分のかぶっていたほおかむりをかぶせ、手を合わせておがむ。こどもたちも手を合わせておがむ)

こども2

「まあすてき！おじぞうさまも、よろこんでおられるみたいね」

おじいさん
「わしのふるいほおかむりじゃが、ほんとうによるこんでくださるといいがなあ。(こどもたちに) おまえたちもてつだってくれて、ありがとう」

こども3

「どういたしました。でも、いえにもつてかえるものが、なにもなくなつたね」

こども4

「でも、おばあさんならきつとわかつてくれるとおもうわ」

おじいさん

「そうだね。おじいさんもそうおもうよ。おなかもすいただろう。

はやくおうちへかえろう」

こどもたち

「(元気に声をあわせて) さんせーい」

(おじいさんとこどもたちは上手に退場)

——暗転——

(ナレーター7・8が下手より舞台中央まで進み出る。観客に一礼したのち)

ナレーター7

「こどもたちは、おなががすいていましたが、なぜかこころはかく、げんきなあしどりで、いえにむかつたのです」

ナレーター8

「ただ、おじいさんは、なにももたずにいえにかえることを、すこしもうしわけなくおもっていました」

(一礼し上手へ退場)

第四場面

(おばあさんは家でおにぎりを作っている。おじいさんとこどもたち、下手より登場)

こどもたち

「(声をあわせて元気に) ただいまー！」

おばあさん

「おかえりなさい。ゆきのなかをたいへんでしたね。さあ、はやくおうちのなかにおはいりなさい」

(動かず下を向いて) 「それが・・・」

おじいさん

「どうかしましたか？」

おばあさん

「たきぎは、すこしもうれなかつたんだよ」

こども1

「でも、しんせつなおじいさんが、かさとりかえてくれたの」

こども2

「そのおじいさんは、かぜをひかないようにって、ぼくたちのぶんまで、かさをくれたんだ」

こども3

「でもね、かえるとちゅうで、さむそうにしていたおじぞうさまに、もっていたかさをみんなかぶせてあげたから、もうひとつものこっていないのよ」

おばあさん

「おじぞうさまにかさをかぶせてあげたんですって？それはいい

ことをしましたね。おじぞうさまも、きつとよろこんでおられるでしょう」

おじいさん 「顔を上げて、頭をかきながら」 おもちをかえなかつたんだが、ゆるしておくれ」

おばあさん 「おもちがなくても、おしよがつはちゃんときますよ。さあ、みんなでおにぎりをいただきますしよ」

こどもたち 「声をあわせて」 ばんぎーい」

おばあさんは、お盆に載せたおにぎりを一人ひとりに配る。おじいさんに配りながら

おばあさん 「さあ、おじいさんもどうぞ」

こども1 「みんなに向かつて」 じゃあ、いつものように声をあわせて」

こども2 「いただきますのよういをしましょう」

こども3 「よくよくかんで」

こども4 「たのしくたべましょう」

こどもたち・おじいさん 「声をあわせて」 いただきます！」

(一同食べはじめる)

おばあさん 「さあ、ほしだけ、たんとおあがり」

おじいさん 「下手を向いて耳を澄ませる」 おや、あれはなんのおとだろう？」

(下手から、「お地蔵さまの歌」が聞こえてくる。一同、下手を向いて耳を澄ます。お地蔵さま、下手から並んで登場。米俵、金銀、宝の山の入った箱をひいてくる。一同驚いて見つめる。お地蔵さまは家の前まで来る)

お地蔵さま1 「戸をたたきながら、ゆっくりと」 こころのやさしいおじいさん、

おばあさん、そしてこどもたち」

お地蔵さま2 「きょうは、ほんとうにありがとう」

お地蔵さま3 「みなさんのおかげで、さむさにごいえずにすみました」

お地蔵さま4 「(米俵をさしだし) これは、わたしたちの、ほんのおれいのきもちです」

おじいさん 「(受け取って) わあ、なんと、ありがたい！」

お地蔵さま5 「みんなで、たくさんおもちをたべてください」

お地蔵さま6 「みんなで、なかよくすごしてください」

こどもたち 「(声をあわせて) おじぞうさま、ありがとうごさいます」

お地蔵さま1 「かさのおかげで、わたしたちもよいおしよがつがむかえられます」

お地蔵さま2 「こころのやさしいみなさんにも」

お地蔵さま3 「よいおしよがつがきますように」

お地蔵さま4 「いつまでも」

お地蔵さま5 「やさしいところと」

お地蔵さま6 「かんしゃのきもちをもつて」

お地蔵さま全員 「声をあわせて」 げんきで、なかよく、くらししてください」

(お地蔵様ふりむいて下手に退場。一同、お地蔵様が退場するまで手を振って見送る)
おばあさん 「なんとおめでたいこと！さあ、みんなでおいおいのうたをうたい

ましよう！」

こどもたち

(声をあわせて) 「さんせい！」

(音楽。今までの登場人物がつきつきに出てきて、楽しく踊るうちに、幕)